

◇ 設立趣旨

私たちは、16年間、カンボジア教育支援に関わってきました。現在のカンボジアは、首都のプノンペンでは、高層ビルが建ち、高級自動車が走っています。16年前のカンボジアからは想像がつかないほどです。小学校の就学率は全国平均で85%に達し、中学、高校進学者も増えました。GDPは、国民一人当たり2001年には\$310と東南アジア最低でしたが、2015年には\$1,000に達し、国も豊かになりました。

一方、貧富の格差は増大し、特に農村部は貧しく、タイ等へ出稼ぎに行き、音信不通となり、子どもを放置してしまう親も沢山います。その子どもたちの中には成績が優秀で能力があるにもかかわらず、中学校へ進学しても退学を余儀なくされる子どもが大勢います。

また、小・中学校の授業は、師範学校出身の教員が増えた今でも、自習が多く、基礎的な授業のやり方が分かっていないという先生が多いということが現状です。

私たちは、長い間、こうしたカンボジアの教育事情に接し、教育こそがすべての始まり、教育こそが真に国を豊かにするとの思いを深くしてきました。

中学校を断念しなければならない子どもたちに奨学金等の給付を行い、また教員に、授業のやり方を指導するプログラムを構築するとともに、実際に小・中学校の教員を指導し、必要に応じた教育環境を整えることが、カンボジアの真に豊かな国づくりに貢献できると確信します。

カンボジアの新しいNGO法では、法人化されていないと支援活動が出来ないため、また、確実に継続した支援が行えるように、一般社団法人Sumita Scholarship Foundation, Cambodia を設立することにしました。

◇ ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生(教員)に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、下記からお願いいたします。

三菱東京UFJ銀行 神保町支店 口座番号 0968555

ゆうちょ銀行 00110-2-767497

口座名：一般社団法人 SSFCカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。

カンボジア SSFC で検索してください。

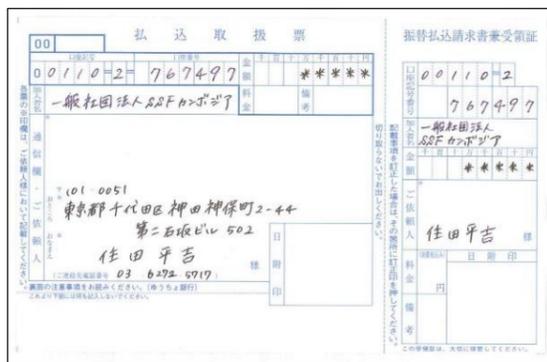
右のQRコードからもアクセスできます。

お問い合わせは、
TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019
E-mail: info@ssfc.or.jp



ホームページ: <http://www.ssfc.or.jp/>

記入例



ញឹម によにゅむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

によにゅむ通信

創刊号 2018年1月号 No.1

一般社団法人
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia
(SSFC) 代表理事 住田平吉
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-44
第二石坂ビル502
TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019
E-mail: info@ssfc.or.jp
ホームページ: <http://www.ssfc.or.jp/>

新年明けましておめでとうございます。
SSFCの活動報告「によにゅむ通信」を毎月発行します。ぜひ、ご覧ください。

◇ 「によにゅむ通信」発行にあたって

SSFCでは、支援者様を始め、より多くの方々に、SSFCのカンボジアでの活動を知っていただくために今後、「によにゅむ通信」を毎月発行いたします。紙面ではSSFCの3支援事業「就学支援(奨学金の給付)・先生の指導力向上の支援(生徒によくわかる授業の仕方)・指導環境の整備の支援」の活動内容と進捗状況、支援を受ける現地の人々の声、その時々々の出来事などをお知らせします。支援者の皆様とSSFCとの繋がりを深める広報・コミュニケーション誌にしたいと思います。

◇ 「によにゅむ通信」名称の由来 **ញឹម** ←カンボジア語「笑顔」

によにゅむは、クメール語(カンボジア語)で「笑顔」という意味です。SSFCの活動にかかわる全ての方が幸せになり笑顔になることを願って「によにゅむ通信」と名付けました。支援を受けるカンボジアの人々の笑顔、支援者様の笑顔、支援活動をする私たちの笑顔が目に見えます。

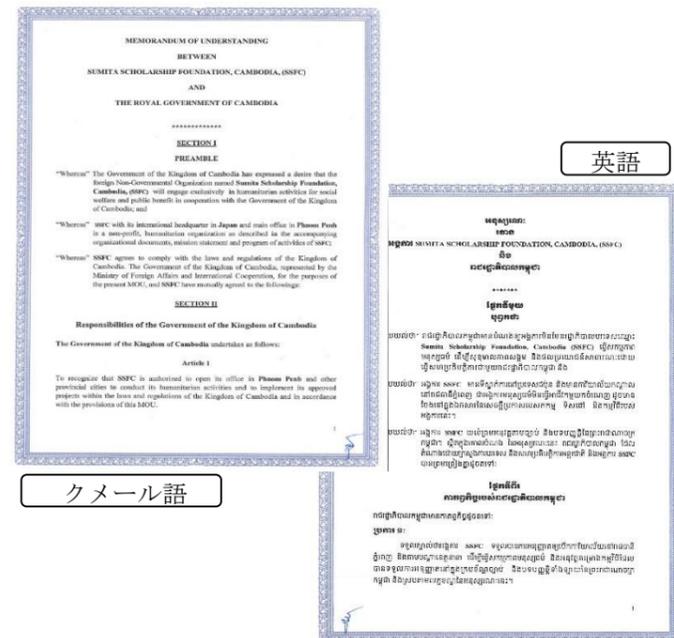
◇ SSFCは、カンボジア政府公認の支援団体(INGO)になりました！

カンボジアで支援活動をする団体は、カンボジア外務省にMOU締結(活動の覚書のようなもの)の申請をして審査が通らなければ活動できません。

申請には、今後3年間の活動計画・予算等も提出します。

外務省とのMOU締結後は、CDC(カンボジア開発協議会)というところに報告をします。また、教育省とも実際の活動に対するMOUを締結しなければならないので、現在申請を行っています。

カンボジア外務省とのMOU



◆現地レポート

◇ 1. 就学支援

奨学金給付事業 能力のある、貧しい中学生・高校生に奨学金を給付します。

カンボジアには、能力がありながら貧困のために、中学校や高等学校に進学できない生徒、中途退学を余儀なくされる生徒がいます。この生徒たちに奨学金を給付し、勉強が続けられる事によって生徒の能力を伸ばし、社会に必要な人材に育てたいと思います。

それが生徒の幸せと国の発展に寄与するものと考えます。

2017～2018スクール年度では、シェムリアップ州アライン・ランサイ中学校の生徒2名、同校を卒業しフンセン・スワイトム高校1年の生徒3名に給付しました。

昨年11月24日に、奨学金の贈呈と、成績優秀者の表彰(先生の指導力向上の支援)の式典を行いました。日本からも支援者様が出席してくださいました。



奨学生一家が住んでいる椰子の葉の家です。



やはり、高床のほうが、涼しいそうです。家の中は一間です。



一生懸命勉強して、
良い国民になり、
国の役に立ちます。

贈呈式で、奨学生がお礼の言葉を述べました。みんな、あがらずに挨拶が出来ました。



2017-2018スクール年度の奨学生5名です。奨学金の自転車、鞆、制服などをもらって嬉しそうです。

◇ 2. 教育環境の改善支援

先生の指導力向上・生徒の理解力向上のために支援します。

カンボジアでは師範学校を卒業しないと先生になれません。師範学校では知識は教えても、授業の仕方は教えないので、自習や教科書を読み上げるだけの授業を多くの学校で見してきました。

そこで「生徒によくわかる授業」「生徒の考える力を育て、学力を向上させ、身に付けさせる授業の仕方」を先生に指導しています。

今年度はアライン・ランサイ中学校で行っています。SSFCの指導理論を教え、模範授業を見せ、現地の先生に授業実践をしてもらい、放課後の研究会で討議しています。

全7回が1つのサイクルです。予想した以上に先生方が熱心なことに手応えを感じています。

奨学金の贈呈式と一緒に、成績優秀者を表彰し記念品を贈呈しました。



さて、「炎」はどうなるかなあ？
わかる人、手を上げて！

理科の実験の模範授業を行いました。生徒も、授業を参観している先生も真剣でした。



模範授業での質問に、生徒の手が挙がりました。後ろのほうでは参観していた先生も手を挙げていました。



放課後の研究会で、真剣にアンケートに書き込む先生方です。



成績優秀者の表彰式で、勉学奨励賞：成績が1番の生徒、努力賞：1年間の成績が最も伸びた生徒を表彰しました。支援者様が挨拶をしてくれました。